

編集室から

この度の大震災のわずか3日前、仙台にいました。会合が終わり、同席した高知の畦地氏と共に、氏の仙台の知人と落ち合いました。その後、席は国分町へ…。ソファに腰掛け、両側に女性が座るお店は、本当に久々でした。

隣になった娘に、飲み物を勧めると、カルピスを注文。何かを割るのかと思いきや、そのまま飲むといいます。19歳だからと…。彼女の源氏名は、舞といいました。話は自然と、今年成人式を迎えた娘の事になりました。

昔の田舎で振袖など思いも抛らなかった祖母、教育委員会の妙な決定で禁止されていた母。親子二代の願いを一身に受けて、張り込まれた着物に袖を通した我が娘。一方、舞ちゃんは、母子家庭のようで、母からは勧められているものの、その苦労を思ってレンタルで済ませようと思案中との事…。孝行娘に、親のすねをかじるのも、親孝行と言うのが精一杯でした。

その後、彼女はどのようにしているのでしょうか…。

インターネット動画サイトのYouTubeに4月2日に投稿された『被災地岩手から「お花見」のお願い』が、1ヶ月足らずで50万回を超える視聴となっています。昨年お世話になった二戸市・南部美人の五代目蔵元からの直接の語り掛けです。「自粛」という二次災害が、被災地の経済に打撃を与え始めています。

東北の被災地を遠く慮り、酒宴を控える姿は、我が国の美德と存知します。その遠慮が、被災地の復興を妨げる…。なんとも矛盾です。

と書いた丁度その時、何と彼の畦地氏から電話。高知で東北の名品を取り寄せ、応援販売を始めたそうです。取材も相次いでいるとか。

義援金も素晴らしい事ですが、出し続ける事ができません。消費活動を通じて、東北の地域経済を持続的に支援する。被災地の良品を愉しみながら支援になる。新しい形です。(は)

東北地方太平洋沖大震災で、お亡くなりになられた方のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、すべての被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。



このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていたければと考えて編集しています。



2011/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2011/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

皐 月



北海道日高・二十軒道路の桜
by hama

負けるな東北！
がんばろう日本！

被災地応援に逆効果の
過剰自粛は、再考を！

寄稿 『しくみ しつらえ しかけ』

株式会社トーン&マター代表 広瀬 郁

それが、どのような値なのかは分からないけれど、日本のデザインは世界で高く評価されていると聞きます。確かに仕事の都合でよく行く上海でも、現地の人にそんなありがたいコメントをもらうことがあります。また、何より僕自身も空間づくりについて全体をまとめるプロデューサーという仕事をしている都合、プロジェクトでデザイナーさんのアイデアやスキルに触れ感動・感化されるのが良くあります。

ただ、デザインという行為や経済活動は、この国で広く浸透しそれをただ「やる」というだけでは世の中に新しい価値を提案するのが難しくなっています。この豊かな国では、いまや百円ショップにも「デザイン」がいきわたっています。それらは「模倣」ではあります。消費者にとって「デザイン」であることには変わりありません。このような状況では、デザイナー自身も、そのアウトプットの評価がされにくいし、自分のやりたいことを貫くにも、予算や決裁などの壁にぶつかり実現するのは容易なことではありません。

いまや、良いモノをうみだすには「デザイン＝「しつらえ」だけでは難しい時代になってきていると言えるでしょう。このような状況下で、「し

濱のつばやき 『神輿を担ぐ』

東日本大震災の被災現場で、獅子奮迅の活動をする自衛隊、消防隊の姿が、伝えられている。彼らだけではない。普通の住民の活動も目を見張る。うるたえた訪日外国人は、いざという時にも沈着冷静な日本人を見て、まるで訓練された軍人のようだと言った。

僅かな炊き出しにも整然と並ぶ人々。勇猛果敢な男たちが、女性や子どもを押しつけて我先に群がる外国の相は無く、非常時でも弱者への思いやりを忘れない、その心。

龍神の背に棲むかのごとき、この国の民の現場力は、計り知れない。

数年前の事を思い出していた。ある大企業の社長をされている方が、秘書を廃したという。優秀な秘書のお蔭で、本人は非常に楽になった。が、ある時、気づいた。このままでは、自分の能力が鈍らになってしまおうと……。現場力と、秘書を持たない社長の話しを併せてみると、日本は神輿担ぎの国だと判る。

民は、お神輿を担ぐ。組織・社会に例えると、乗っているのは、リーダーたちである。この国のリーダーは、現場からの叩き上げも少なくない。かつて、優秀だった人々が、あまりにも優秀な担ぎ手に担がれ揺られるうち、自らも気付かず能力が鈍ってゆく。上からの指示に不足があっても、現場力が解決してしまう。それに気づ

つらえ」に加えて「しくみ」や「しかけ」という要素が非常に重要だと考えています。「しくみ」とは、主にお金や契約まわりのこと。大半のデザイナーが苦手な分野。「しかけ」とは、主にコンセプトを体現するサービスや機能などソフト部分です。

僕が手掛ける不動産・建築のプロジェクトでは、明確なコンセプトメイキングからはじまり、事業スキームや収益構造などの「しくみ」、建築やグラフィックなどの「しつらえ」、そしてプログラムやサービスなどの「しかけ」の三要素を総合的に構築することを常に心掛けています。

このことにより、お客様ある利用者や運営者からも評価を頂けるし、なによりつくった場所が継続的に愛される可能性が高まるから。

日本ではまだまだ、モノづくりプロジェクトを推進するために、コンセプトを立案したり、事業性を検証しながらクリエイティブを調整する役割が認められていないこともあり、難しい場面にも遭遇します。それでも、良いモノを生み出すために、「しくみ」「しつらえ」「しかけ」の視点でプロジェクトに取り組み毎日です。



【プロフィール】
（ひろせ いく）プロデューサー。東北大学大学院非常勤講師。手掛けたプロジェクトは、リノベーションホテル「CLASKA」、上海万博の施設「Abilia」、アニメ拠点のカフェ「武威野カンパス」など。

かずにいると、能力はますます鈍る。やがて、現場力によって肅々と事が運ばれてゆく……。

リーダーは、上にはなく、現場に居る。諸外国では、特に優秀なリーダーが欠かせない。しかしリーダーたちは、民衆を育てない。衆愚に放置すれば、自らの地位保全には、有利に働く。

ところが、リーダー層が腐敗するか、彼らの能力を超える事態が発生すると、全体が制御不能に陥り、一気に社会が崩壊する。大衆は暴動を起こして我が身を守るしか、手立てが無い。リーダーが変わると、国も劇的に変わる。革命・騒乱の種は、ここにある。

一方、我が国では上が変わっても国は変わらない。担ぎ手が変わらないからだ。変革が起きにくい種は、ここにある。本気で変革を望むなら自身が変わるしかない。

我々は、より善き地域社会を創造するために、さまざまな地域計画の立案に従事している。その計画で想定範囲が狭く、浅いとどうなるか。この大震災は如実に明らかにした。過去の日露・太平洋戦史を紐解くまでも無く、お粗末な作戦・計画・上層部の指令のお蔭で、悲惨な目に遭い、無益な闘いを強いられるのは、古今東西の別無く「現場」だ。影響甚大な領域では、亡国にも至る。

神輿担ぎの国・日本。人々の持つ高い現場力を見誤ってはならぬ、と思う。使命を果たすためにも、ウツカリ担がれてはなるまい。ビジョンと現場の両睨みが続く。

『採用の際(きわ)で...』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

先日、某大手企業の面接代行という仕事を引き受けることになった。先方人事部長からの要望は以下の通りである。

ここ数年の大卒採用を振り返ると、難関校出身者で優秀なメンバーは多いものの、何となく小粒で今一つ物足りなさを感じる。これは若手社員だけではなく、中堅社員についても言えること。以前は周囲との対立や軋轢を物ともせず、自分の信念を貫き事業を推進していった社員がいたのだが、最近はどういった前のめり人材がいなくなった。ひょっとすると、面接時にこういった前のめり人材を落としているのかもしれない。だから面接に関わることで、この前のめり人材をピックアップして欲しい、とすることだった。

で、面接代行をしたのである。対象メンバーは1次面接を通過した140人弱の中の39人で、この学生を3日間かけて面接した。3次面接に進むのは、140人中25名前後なので、担当した39人の中からだと7、8名と言うことになる。

ちなみに採用予定数は10名前後ということだ。また応募総数は万の単位で来ている。この応募者を140人にまで絞り込む事自体が、一仕事だとつくづく思った。

さて、この対象となった39人なのだが、大学は全て超難関校で、適性試験の結果も申し分ない。3割くらいが帰国子女、8割以上が1年以上の海外留学経験があり、ほとんどの学生が、英語が堪能でバイリンガル。中にはTOIEC990点(なんと満点ですよ、初めてみました)という学生もいた。正直言ってこの39名は、前のめり人材という基準を設けなければ、どこに行っても内定が取れそうな人材であった。

面接時間は一人30分。この30分で前のめり人材を探し当て、ピックアップしなければならなかった。このため気配り、気遣いができそうな学生や、自分より周りの事を優先して考える学生ではなく、鼻っぺしが強そうで、生意気そうな学生。常に周囲と何かしらの対立、軋轢を生みだしている学生。周りの事よりも自分自身を優先しがちな学生。というタイプを探すようにした。

結果的には7名の候補者を見つけ出すことができ、まあこの面接代行の仕事そのものは、先方に満足してもらえ事にはなった。

しかし、この仕事をやってつくづく思ったことは、超難関校出身者で、しかも留学経験があり、バイリンガルでも就職できないという現実である。

人事スタッフも、いかにして採用するかではなく、いかにして不採用にするかに悩む。つまりこれは不採用活動だ。こりゃ、なんかおかしい。

『無趣味も個性?』

株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

最近趣味がない事にがっかりするケースが多々あります。HPの自己紹介文を書くときや、お店に来られるお客様との会話など自分がまるで『こだわり』、『個性』がない自分に見えて仕方がないと思ってしまう機会があまりにも多いのです。

お客様がよく話されている趣味と言えば上位ランクが

1. ゴルフ.....以前はやったけど、コストかかるし朝早いしなあ
2. スノーボード...雪国育ちとしては、何故時間とお金をかけていくのかが疑問
3. サーフィン.....ミーハーでやった初日に沖に流され漁船に助けられる始末
4. 車.....タイヤが4つあればいいという男です
5. 映画鑑賞.....エンディングの時はすでに夢の中
6. 音楽.....小室ファミリーから時代が止まっています
7. フットサル.....20代は週3でやってました。今やったら骨折確実です。
8. 登山.....最近はやってますねー。私は高所恐怖症です。
9. 海外旅行.....鉄の塊の飛行機がなぜ飛べるのか?未だ理解できず。
10. 資格取得 本当にそういう人いるんだという感じでした。

普通免許しか持ってません。

ということで、大概の趣味の話題にはついていけない状態です。

しかし、以前は自信を持って言える趣味がありました。それは「お酒を飲む」ことでした。週に4日は都内のいろんなお店に行ってお酒を飲んでました。友達以外にも一人でバーに顔出していたくらいです。何が楽しいって、お酒を飲むという楽しい場で会う人々との会話が何よりの楽しみでした。地域活性化というお題目とは別に、そういった場を創りたいと思ったのも「能登の夜市」を始めたきっかけでもあります。ということで、今はその場を提供する側になってしまったため唯一の「酒を飲む」という趣味を失ったわけです。でもまあ、「お酒を飲む」ことが目的ではなく「人とつながる場」にいたことが目的ではなかったか? お酒はその手段ではないか!!と一人勝手に自己完結していますが、『何か今はまっています?』と問われると返答に困る毎日です。

何がこんな無趣味な人間にしているんでしょう。そう言えばうちの親も自営業だからか、仕事ばかりで趣味らしきものもなかったなあ。遺伝というか、育った環境なのかな? 単に「面倒くさがり」な性格なだけかな。それも明確に自己分析できていません。

こんな自分はもしかすると「個性的」なのかもしれません。

焼津市市民まちづくり活動事業の審査委員なるものを2年前からやっている。焼津のまちづくりを市民と協働で推進することで、地域の活性化や課題解決をする。それを行うNPOに補助金を出す事業で、補助金を出すべきかどうかのジャッジを任されている。

「NPOと誰が協働する？」行政が となると、行政の役割の一つに補助金がある。NPOが主体となってやる事業に金銭的に支援をするのが本事業である。

この補助金の出し方が工夫されている。全額補助で上限10万円の初期的事業と、8割補助で上限30万円の発展的事业の2種類になっている。かなり高い補助率が意味することは何か。補助の対象もきめ細かく示されているのは、NPOに、より公共性の高い仕事を期待しているということなのだ。

今年度初めての招集は、昨年度の補助を受けたNPOの活動報告会だ。一緒に汗を流した仲間内の爽快感・達成感だけで終わったのでは、補助金の効果を客観的に計る機会がない。そこで今回の公開発表会となった。

子育て支援、親水公園の利用促進、焼津港でのライブイベント、里づくり、焼津ゆかりの作家小泉八雲の演劇、講演会・講座の開催、地域の伝統芸能・文化を残すというものから、第五福竜丸のビキニ環礁での被爆の歴史がある焼津流平和活動etc.と幅広い。

その中でも異彩を放っていた事業が二つあった。一つは「口から食べること」の啓発活動。何それ？当たり前のことじゃない。よくよく



聞くと、人生最期まで口から食べることの幸せの意味を説き、高齢者や障がい者には口で食べることの訓練や、やさしい嚥下食を研究するなど、高齢社会に必要な活動をされていることがわかった。聞くとこのように活動している団体は全国でもここだけのこと。啓発のための紙芝居の披露、その他活動報告は文字無しの全面スライドショー。映像が何よりも多くを語ってくれた。BGMの選曲もいい。

そして、最も気に入った事業が「おいしい！プロジェクト」だ。20代前半の若い女性が発表した。このプロジェクト、市内でのイベントに出向いて行っては「おもてなし」をするのだ。数年前から始まった浜通りの灯籠のイベントでは、休憩のためのベンチを準備し、茶店を出して水羊羹を振舞う。別のイベントではゲーム性の高いスタンプラリーを実施し、イベント会場の人を市内に周遊させることを仕掛けた。市民に市内で最も気に入っている景色を描かせ、完成した絵と一緒に描いた人の写真を撮り、それを大きなボードに貼り付け皆で楽しく眺める。



イベント主催者となれば、気の効いたおもてなしが欲しい、そしてもう工夫スパイス的な仕掛けが欲しいと思うことが多い。そこにこの「おもてなしプロジェクト」。補助金は52,000円也。~いい仕事してますねえ~。

今回は6月に今年度の補助事業に挑戦するNPOのプレゼンテーションがある。大いに楽しみである。